

I 学校部活動の地域移行の背景

学校部活動の意義

- スポーツや文化に親しむ機会の確保
- 活動を通じ責任感・連帯感や自主性の育成
- 人間関係の構築や自己肯定感の向上、問題行動の抑制

課題

- 全国的に中学校の生徒数が減少しており、**部活動の持続が困難化**
- 競技経験のない指導、休日も含めた指導により、**教員に大きな業務負担**

令和4年6月 令和4年8月	スポーツ庁 文化庁	「運動部活動の地域移行に関する検討会議 提言」 「文化部活動の地域移行に関する検討会議 提言」 □7年度末を目標に、まずは 休日の（運動・文化）部活動から段階的に地域移行 していく。
令和4年12月	スポーツ庁 文化庁	「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」 □地域の実情等に応じて 可能な限り早期の実現 を目指す。 □ 推進計画の策定等 により・・・分かりやすく周知し、理解と協力を得られるよう取り組む。
令和5年3月	東京都	「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」 「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」

学校部活動

位置付け	学校教育の一環（教育課程外）
指導者	当該校の部活動顧問
参加者	当該校の生徒
場所	当該校の施設
費用	部費等
保険	学校保険

地域連携

- 部活動指導員の制度などにより、地域の指導者が部活に参加し、専門性の高い指導、顧問の負担軽減を図る

地域移行後

位置付け	学校教育外（社会教育）
指導者	地域や民間の指導者
参加者	生徒（当該校以外含む）
場所	学校施設・公共施設等
費用	会費、用具代等
保険	区が加入した保険等

地域クラブ活動

- 地域の多様な主体が学校と連携して実施するクラブ活動

江東区が目指すもの

行政・学校・地域がともに考え、創る、みんなが輝くクラブ活動

- ▶ 全国的に中学校生徒数が減少する中で、将来にわたり子どもたちがスポーツ・文化に継続的に親しむことができる環境の構築
- ▶ **教員の負担軽減**により、本来業務へ注力できる環境づくり

II 推進ロードマップ（2023～2025）

R5

R6

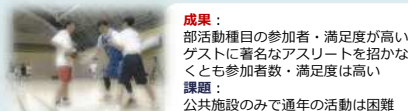
R7

地域連携

- 部活動指導員の配置を各校1名へ増員

- 庁内検討会議の設置（庁内関係部署の連携体制構築）
- 運動部・文化部試行事業の実施

地域移行



成果：部活動種目の参加者・満足度が高い
ゲストに著名なアスリートを招くことも参加者数・満足度は高い
課題：公共施設のみで通年の活動は困難

成果：専門的指導により満足度は高い
課題：一日の活動ではできないことが限定的
専門性が高く指導者の確保が困難

- 外部有識者等を交えた検討体制（協議会）の構築
- 区の**推進方針策定**に着手
- 運動部・文化部試行事業の実施（複数日程での活動）

協議会

休日部活動等の
地域移行に係る
庁内検討会議

- 教育委員事務局
- スポーツ・文化関係部署等

休日部活動の
地域連携・地域移行
推進会議

- 学識経験者 ■学校長代表
- PTA代表
- 地域団体代表 等

- 全24校での1名配置

江東区の推進方針策定

- 8年度以降の運営体制構築
- 運動部・文化部試行事業の実施（3年目）

2025年度末までの達成目標

- ▶ **区の推進方針策定**
令和6年度より会議体を設置し、**区の方針策定**を行っていきます。
- ▶ **運営体制の構築**
令和5年度から7年度の3年間で「江東区健康スポーツ公社」及び「江東区文化コミュニティ財団」などと連携した試行事業を実施します。
また、民間団体などの活用も視野に入れ、**8年度以降のクラブ活動の運営主体を構築**します。
- ▶ **指導体制の構築**
地域で指導を希望する人材の**マッチング・教員の兼職兼業の仕組みづくり**を行います。